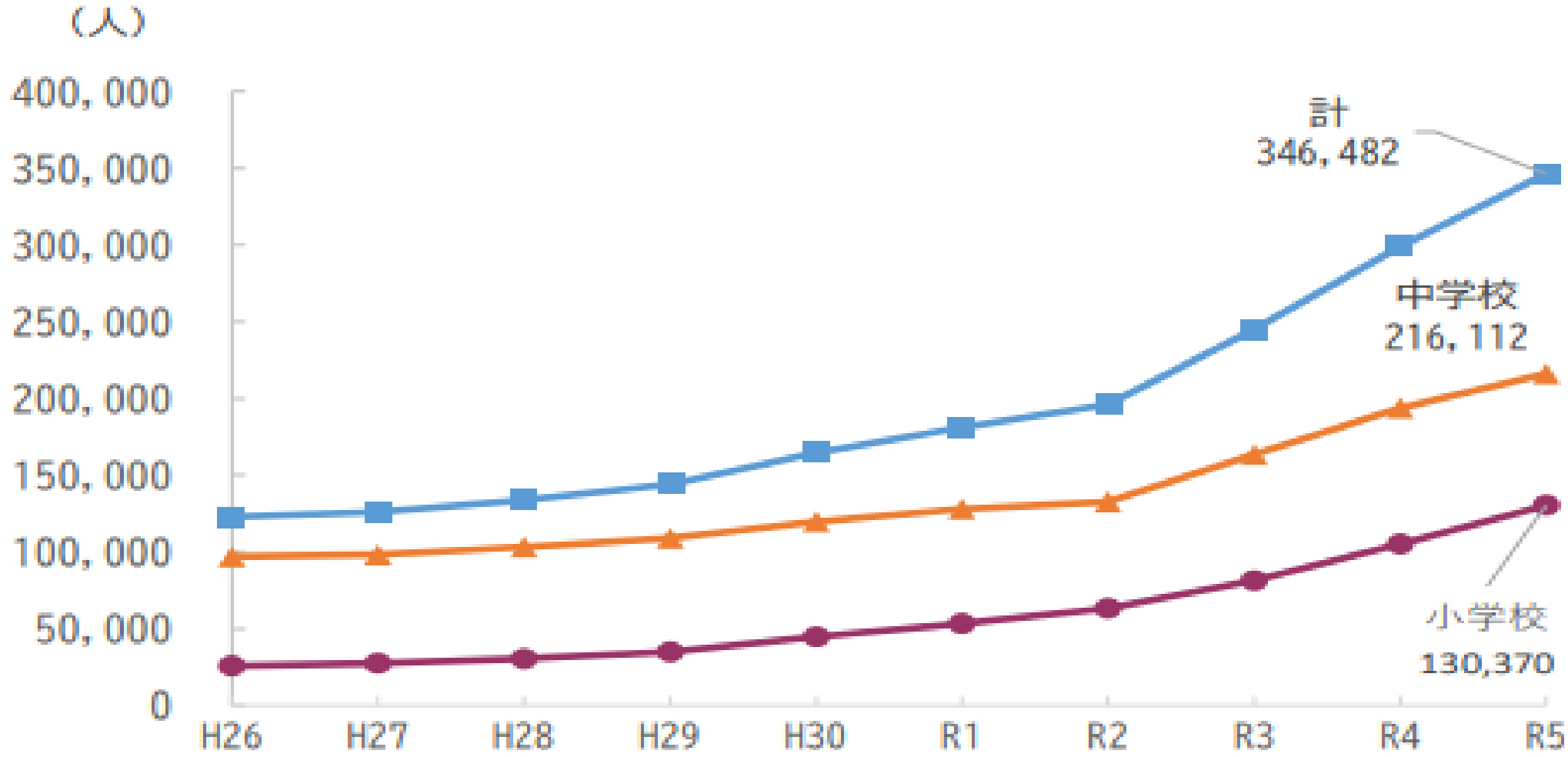
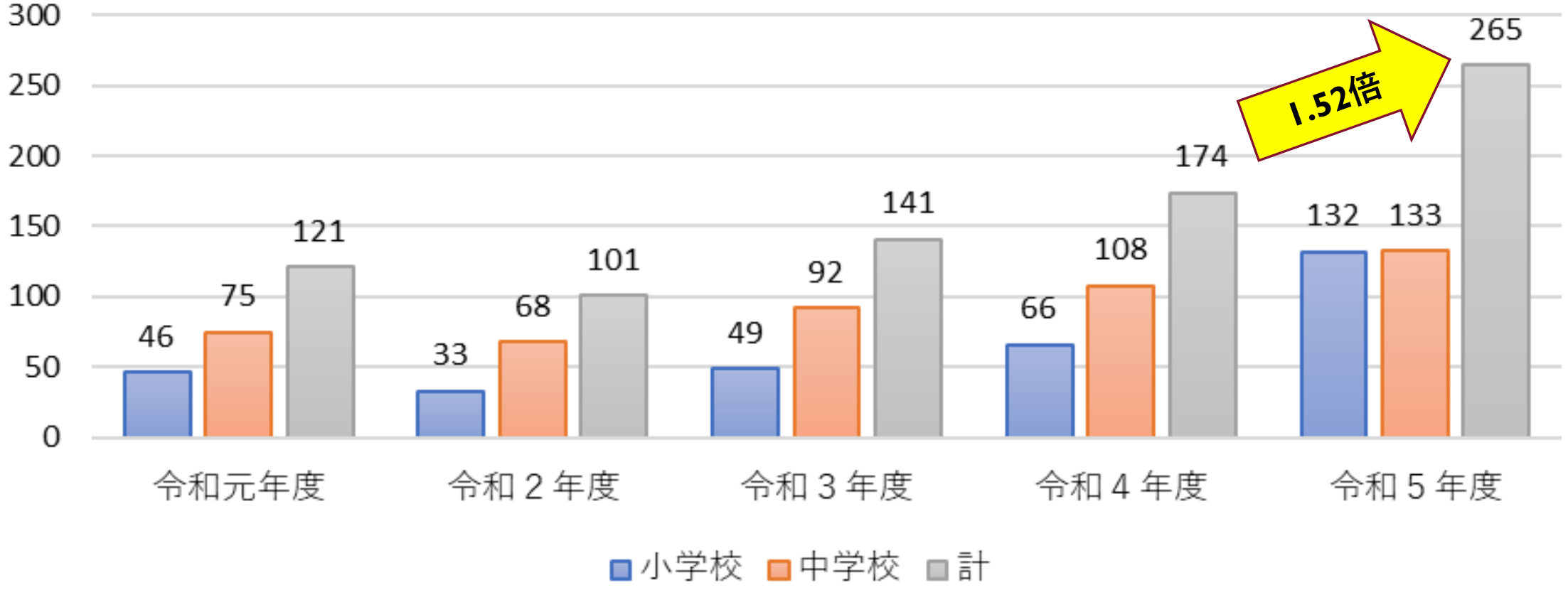
多賀城市の児童生徒

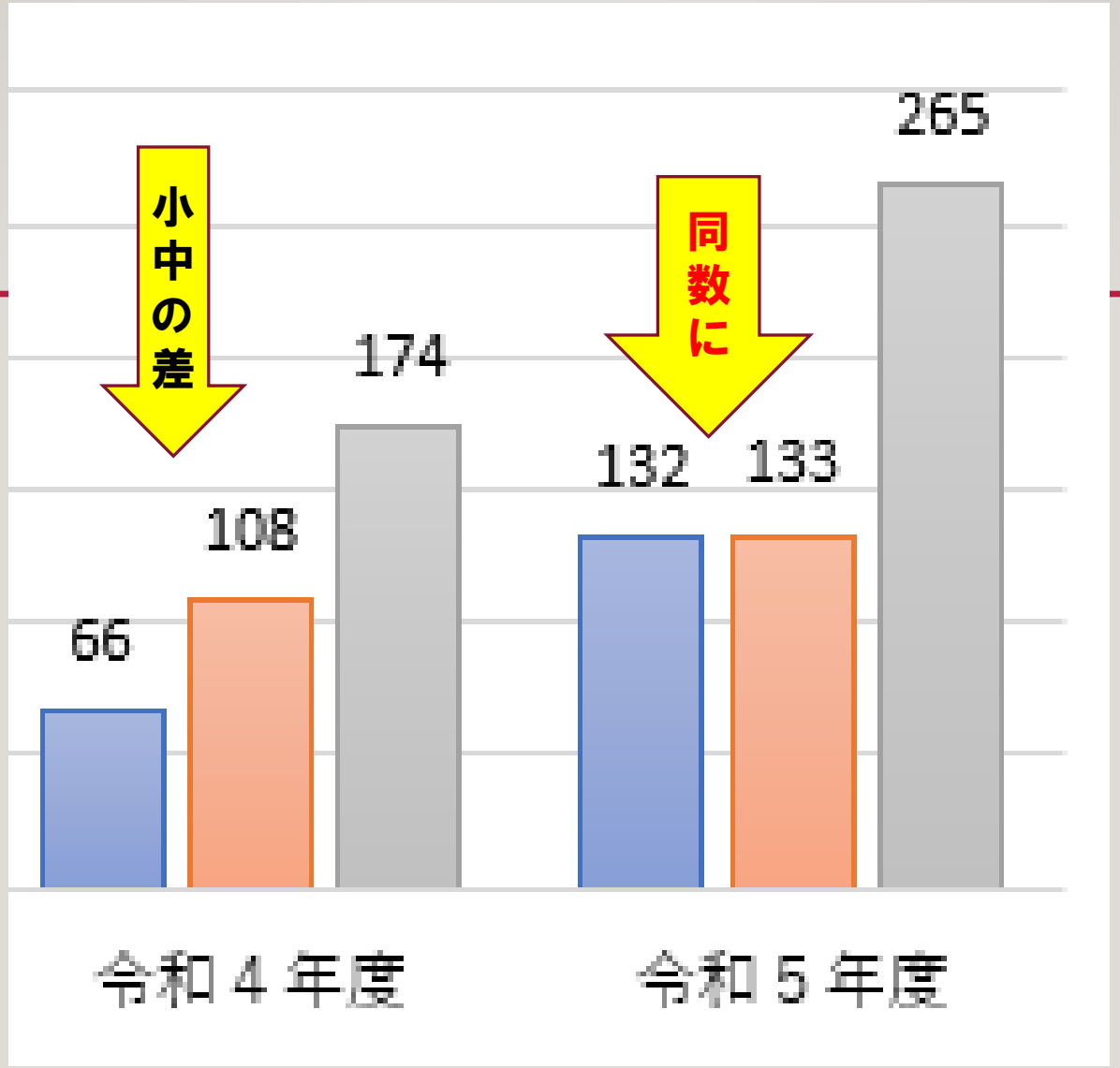
長期欠席状況の傾向と対策

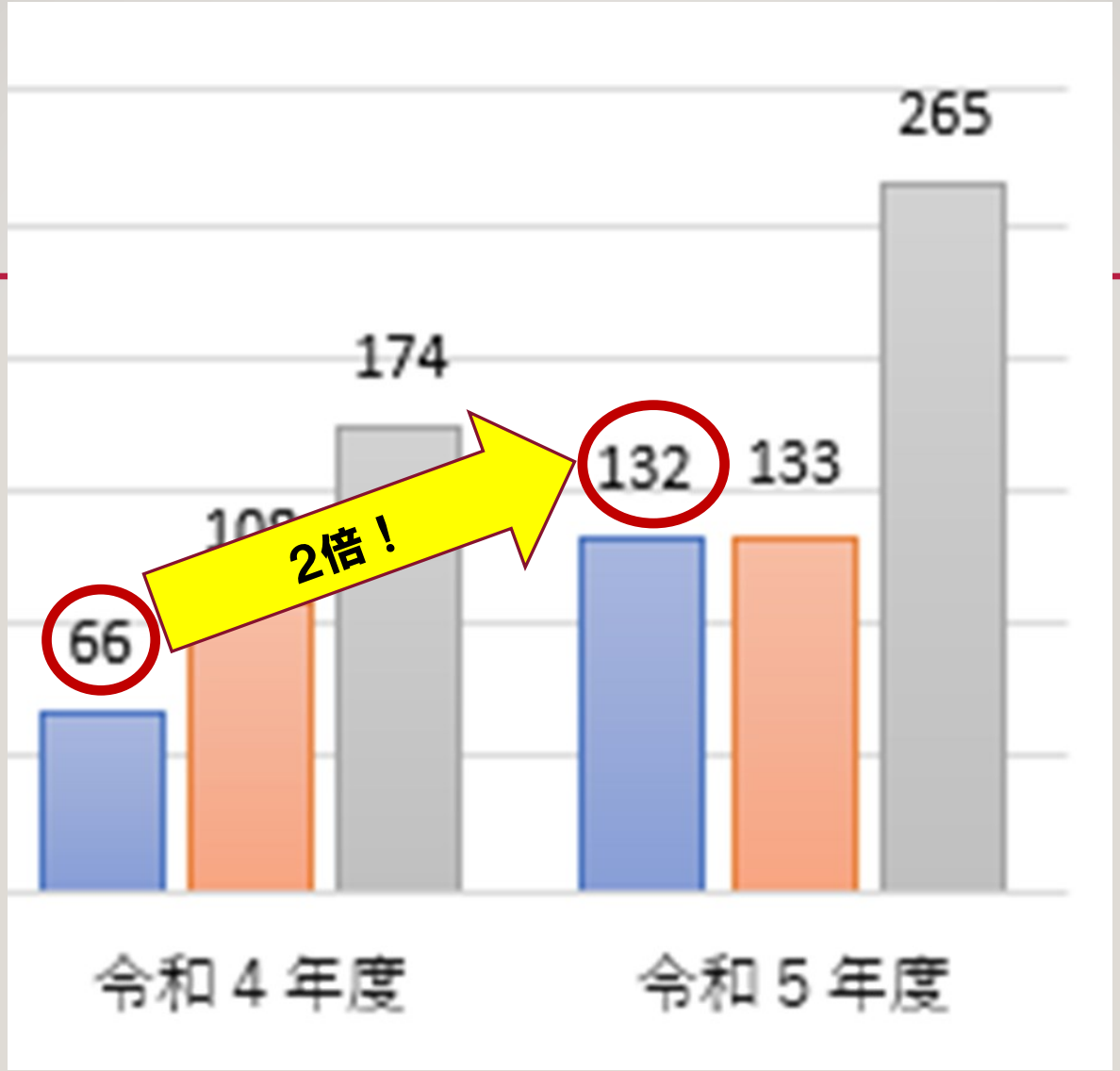
不登校児童生徒数の推移



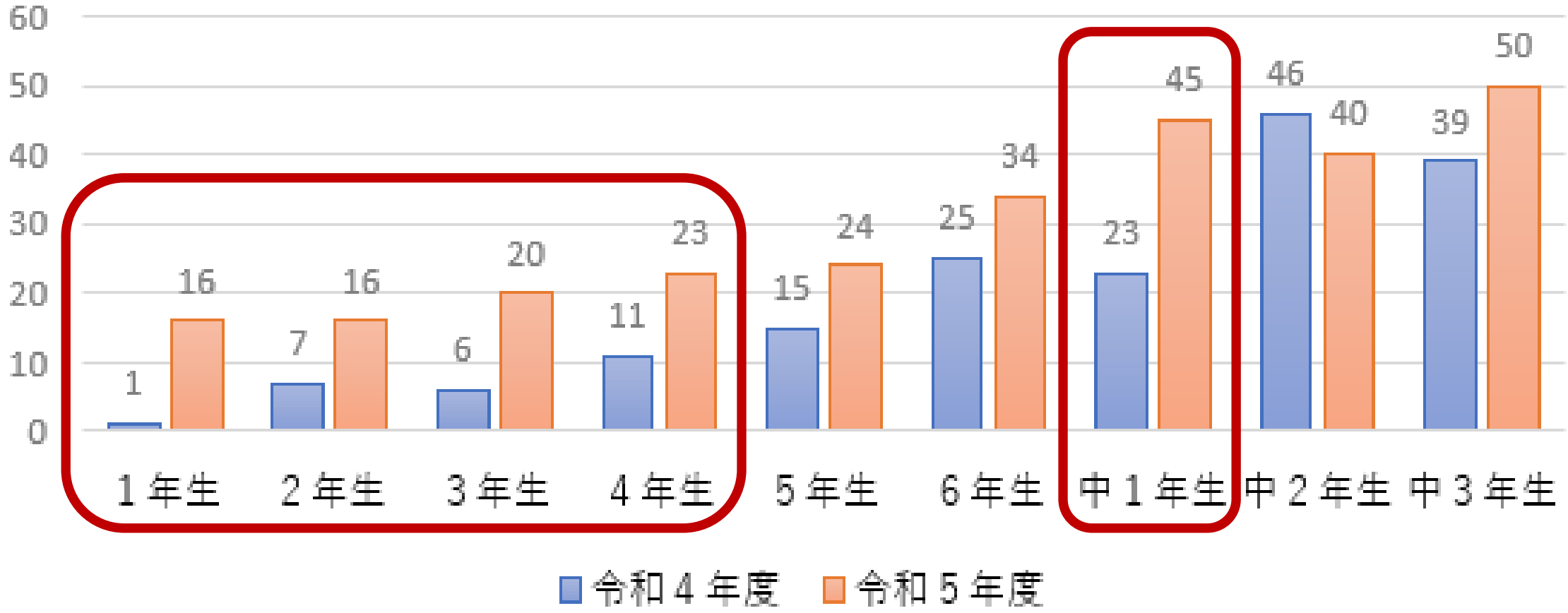
不登校児童生徒数経年変化




小中の差
同数に
66
108
174
132
133
265
令和４年度
令和５年度


265
174
132
133
66
2倍！
令和４年度
令和５年度

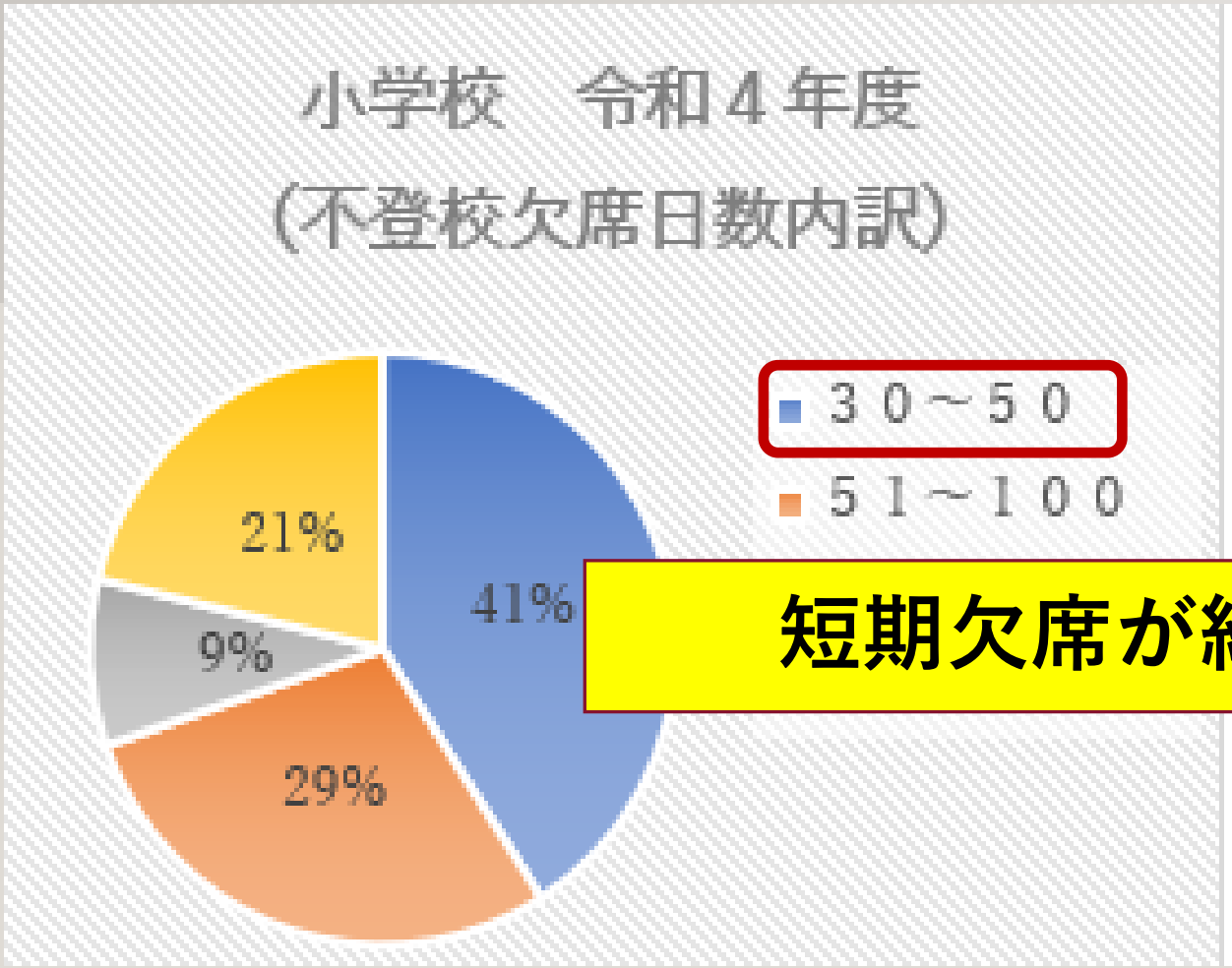
学年別不登校児童生徒数年度比較



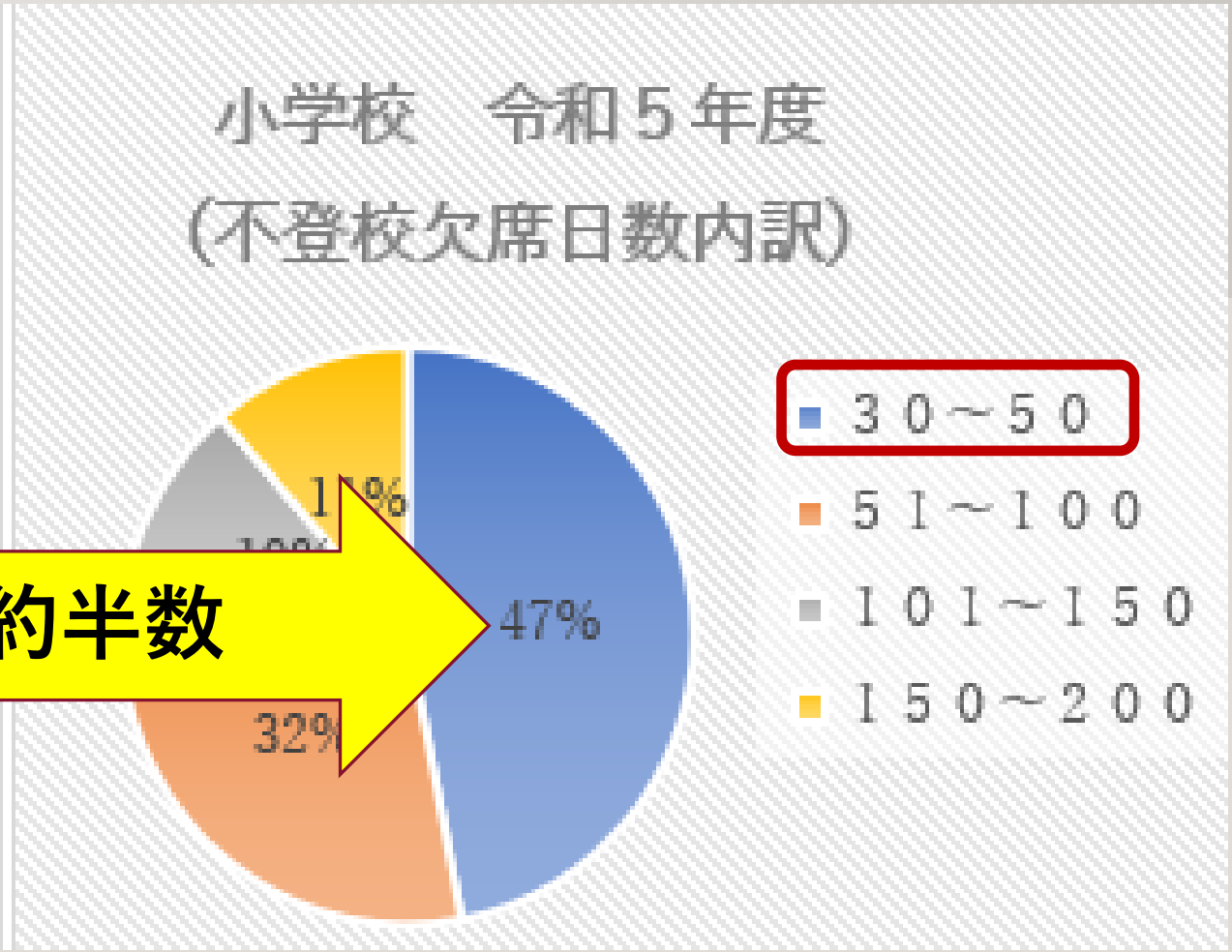
兄弟、父母など
家族関係の影響による

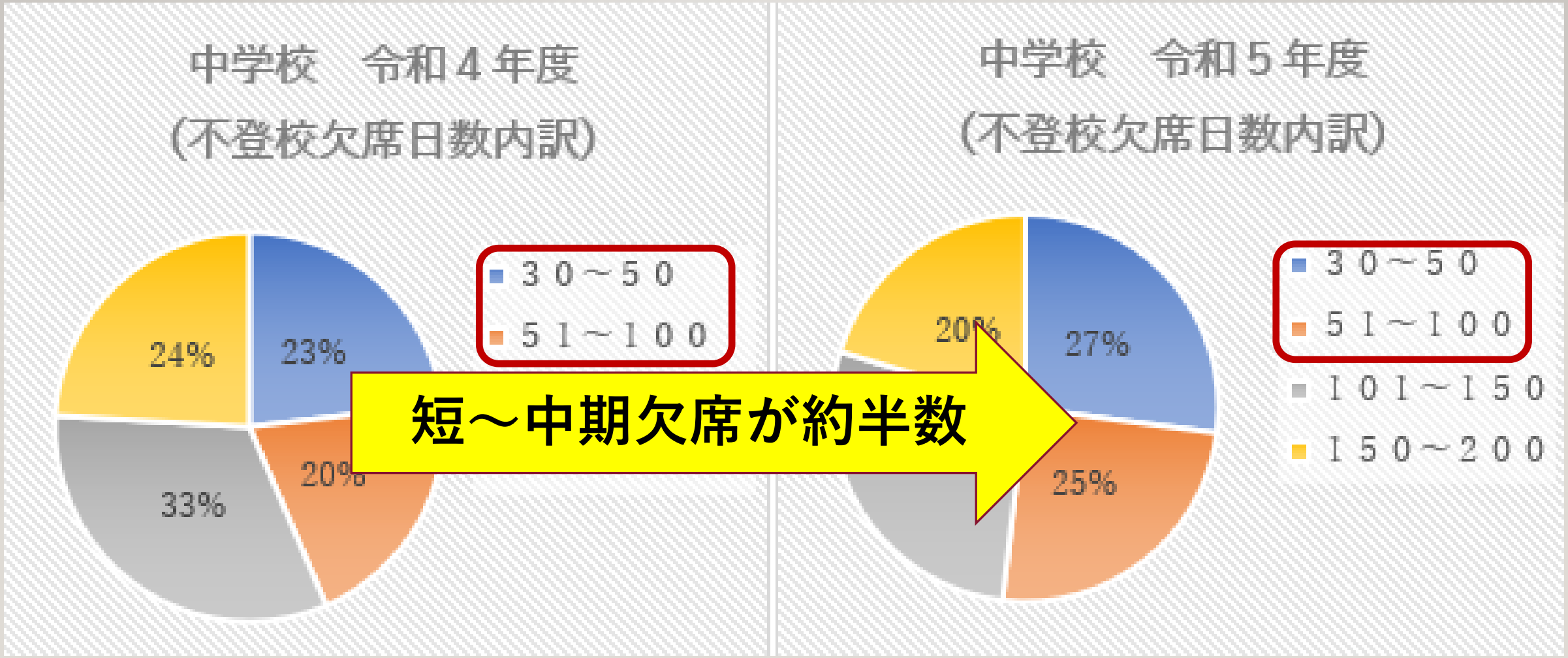
	1位				5位
1年生	兄弟の影響(不登校)	体調不良	学習不安	保護者の 後押しがない	集団不適応
2年生	体調不良	集団不適応	母子分離不安	兄弟の影響(不登校)	保護者が休ませる
3年生	集団不適応	家族関係	学習不安	母子分離不安	兄弟の影響(不登校)
4年生	体調不良	集団不適応	学習不安	怠学	生活リズムの乱れ
中1年生	集団不適応	体調不良	対人関係	怠学(無気力)	学習不安

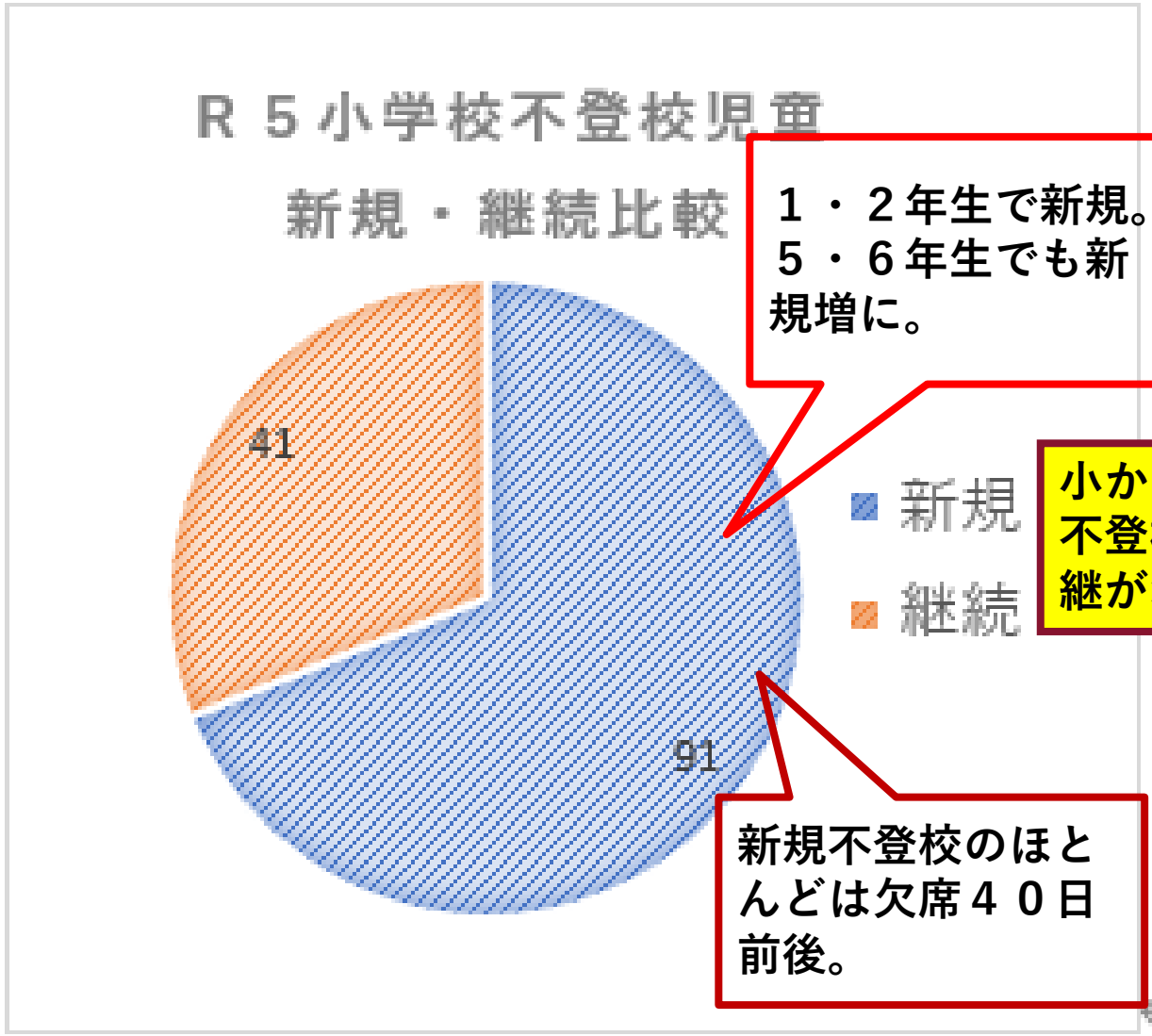
集団不適応


小学校　令和４年度
(不登校欠席日数内訳)
３０～５０
５１～１００
41%
29%
9%
21%

短期欠席が約半数


小学校　令和５年度
(不登校欠席日数内訳)
３０～５０
５１～１００
１０１～１５０
１５０～２００
47%
32%

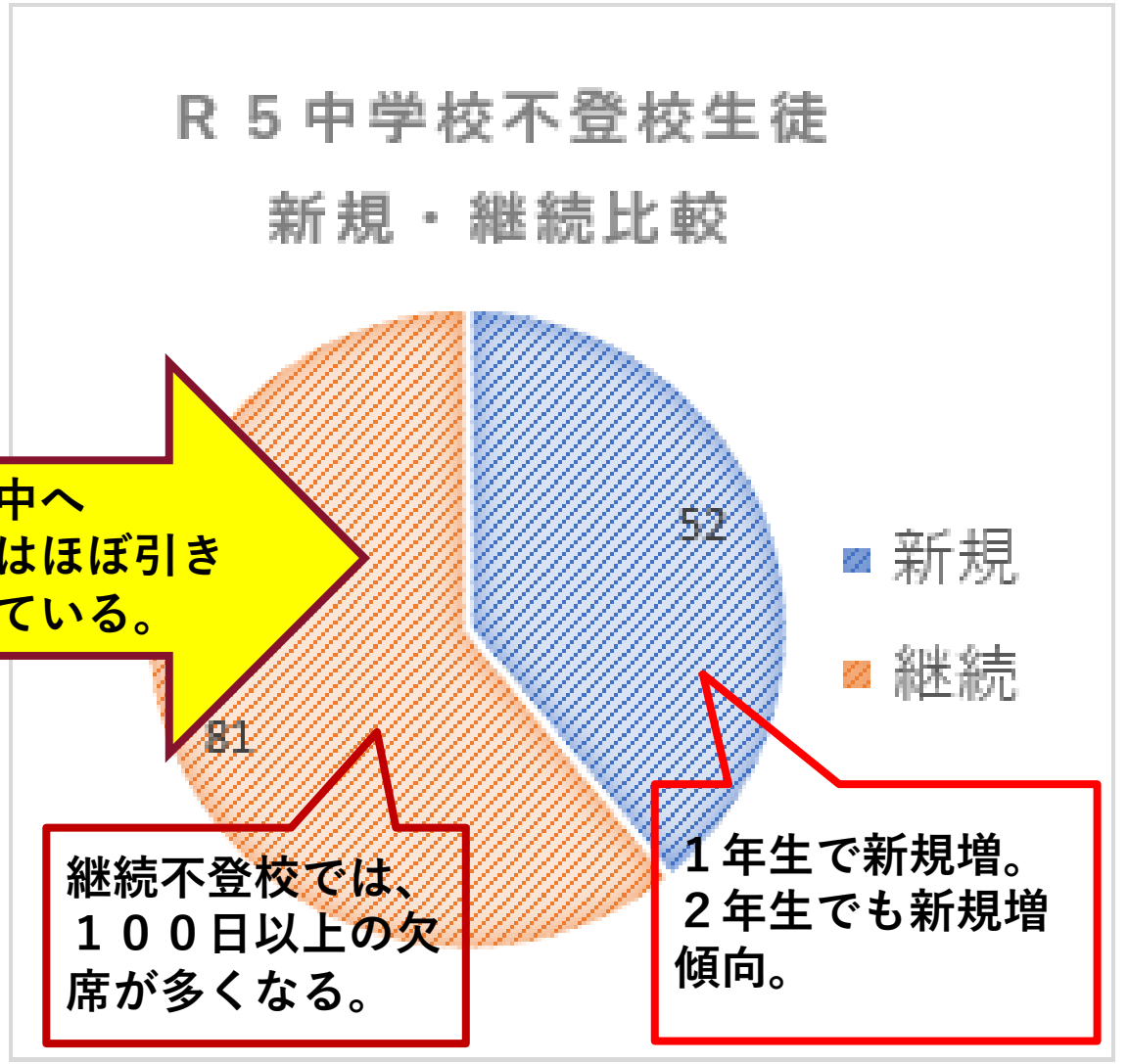

中学校　令和４年度
（不登校欠席日数内訳）
３０～５０
５１～１００
１０１～１５０
１５０～２００
23%
20%
33%
24%
短～中期欠席が約半数
中学校　令和５年度
（不登校欠席日数内訳）
３０～５０
５１～１００
１０１～１５０
１５０～２００
27%
25%
20%



１・２年生で新規。
５・６年生でも新規増に。

新規不登校のほとんどは欠席４０日前後。

小から中へ
不登校はほぼ引き継がれている。



継続不登校では、１００日以上の欠席が多くなる。

１年生で新規増。
２年生でも新規増傾向。

結果分析と対策１

○ 不登校の背景（理由）

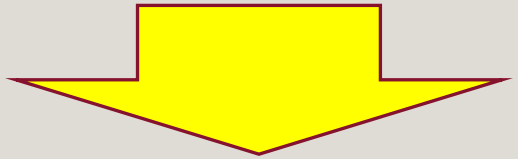
・小学校（低学年）　👉　家族関係（家庭環境）

・小学校（中学年）、中学校　👉　集団不適応

結果分析と対策１

○ 不登校の背景（理由）

・小学校（低学年）　☞　家族関係（家庭環境）



◎ 対策１

・家庭から学校に明るく送り出す力を求めたい。

・保護者に児童を学校につなぐ責務があることを伝える必要性も。

結果分析と対策１

○ 不登校の背景（理由）

・小学校（中学年）、中学校　☞　集団不適応

◎ 対策２

・集団 ＝ 学級　集団作り（学級づくり）を意識した経営。

・一人一人の見取り。特別支援コーディネーターと共有⇒保護者との教育相談へ。

結果分析と対策２

○ 欠席の期間

小学校　約半数が50日までの欠席

中学校　半数超が100日までの欠席

→ 対策に違い

小中学校　100日を超える欠席は継続不登校に多い。

結果分析と対策２

○ 欠席の期間

小学校　約半数が50日までの欠席

中学校　半数超が100日までの欠席

◎ 日ごろからの声掛け。

家庭から送り出す力を引き出す。

結果分析と対策２

○ 欠席の期間

小中学校　１００日を超える欠席は継続不登校に多い。

◎ より個別要因に向き合う必要性。

個々の想いに近づき、次の対応策につなげる。

学校に伝えていること（校長会にて）

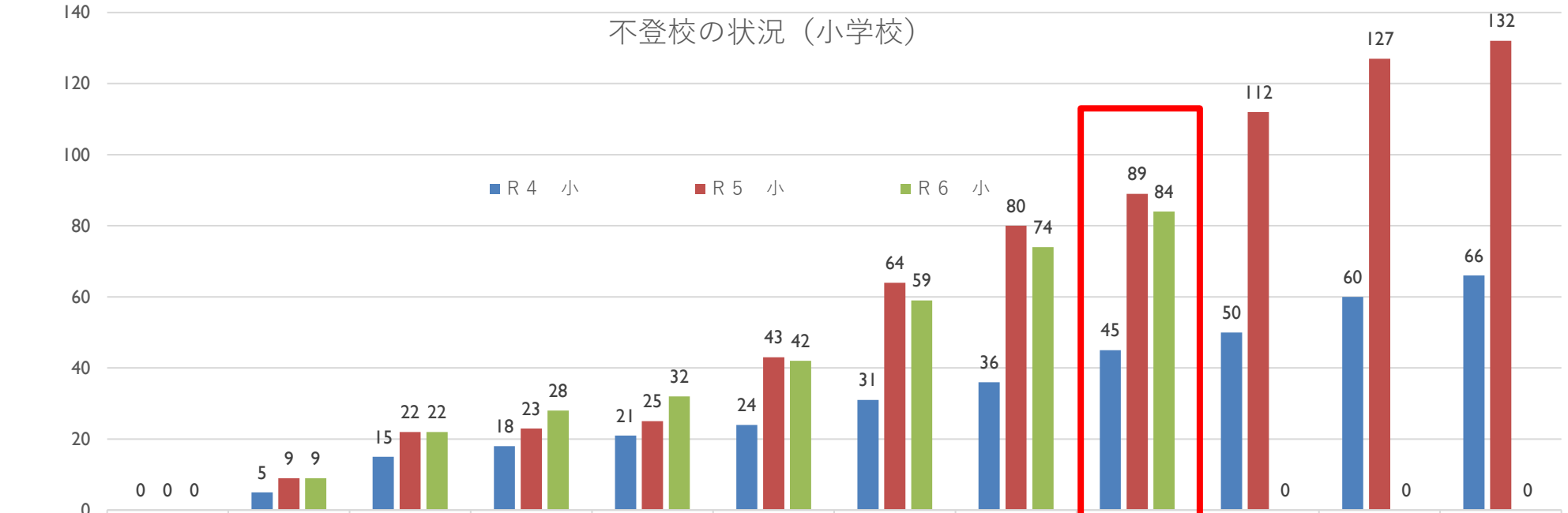
○ 未然防止　学校の魅力創生

　自信をもって「**学校に送り出せ！**」

○ 初期対策　不安解消　「**学校はあなたの味方だよ！**」

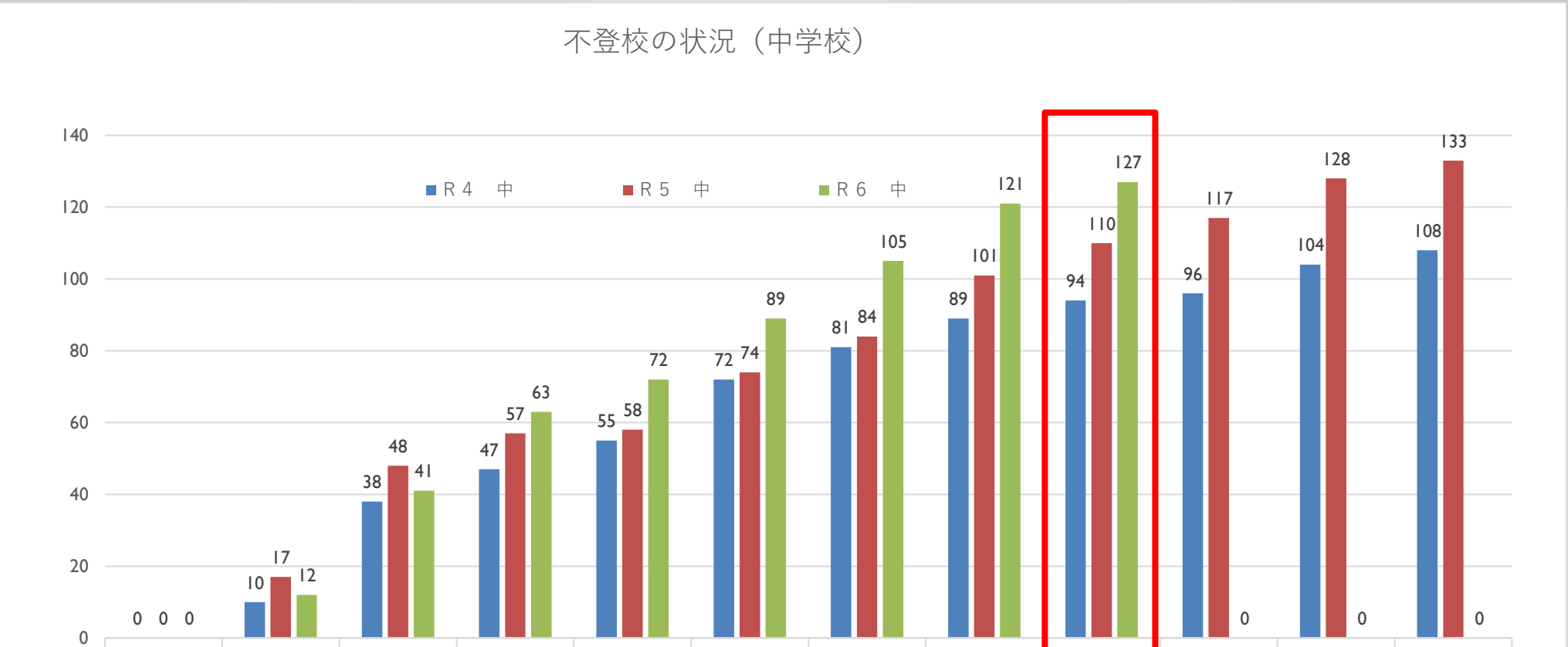
○ 継続対応　**チーム学校として力の発揮どころ**

令和6年度（12月末現在）の長期欠席者数【小学校】



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R４　小	0	5	15	18	21	24	31	36	45	50	60	66
R５　小	0	9	22	23	25	43	64	80	89	112	127	132
R６　小	0	9	22	28	32	42	59	74	84	0	0	0

令和6年度（12月末現在）の長期欠席者数【中学校】



	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
R４　中	0	10	38	47	55	72	81	89	94	96	104	108
R５　中	0	17	48	57	58	74	84	101	110	117	128	133
R６　中	0	12	41	63	72	89	105	121	127	0	0	0

令和６年度　保護者配布のリーフレット

学校に行きたくないといわれたら

今まで元気に学校に通っていたお子様が突然「学校に行きたくない」と話してきたら、保護者の皆さんは、大きなショックを受け、なんとかしなくてはと焦ったり、大きな不安に襲われたりするのではないでしょうか。まして、それが続いていくと、家庭にも影響がでてくるかもしれません。

そんな時、その思いを抱え込まずに、誰かに相談してみませんか？

多賀城市教育委員会

不登校・登校しぶりなどに関する相談窓口一覧

相談を行うと
① 気持ちが楽になる
②解決の糸口となる
③問題を家庭内で抱え込まずにすむ
④お子さんの安心できる人、居場所がみつかる
⑤専門家とつながることができる

相談窓口・居場所

所属の学校	担任や学年主任、養護教諭など話しやすい教員にご相談ください。
スクールカウンセラー	各学校で、日にちを決めて相談を受けています。予約制ですのでお申し込みは学校の担当又は教頭まで、お申し出ください。お子様１人でも、親御さんだけでも、親子でもかまいません。
学校設置のほっとルーム	宮城県教育委員会と連携し、山王小学校、城南小学校、第二中学校、高崎中学校の４校には、教室に入ることに困難を感じるお子さんのために、ほっとルームという別室を開設し、担当教員を配置しています。
多賀城市教育委員会 教育支援担当	学校教育専門指導員、指導主事が相談の窓口となります。対象は小学生、中学生となります。必要な場合には、スクールソーシャルワーカーにおつなぎし、専門機関の力をお借りすることもあります。 TEL 022-368-5022　（教育総務課教育支援担当）
多賀城市青少年育成相談	青少年自身や保護者が抱えている問題について相談を受け付けています。青少年（小学生、中学生、高校生）および保護者のための相談窓口です。 TEL 022-368-2457(生涯学習課内青少年育成センター直通)
たがじょう子どもの心のケアハウス	多賀城市では、学校に通うことが困難なお子さんのために、学校とは別な場所に子どもたちの自立支援、学び支援のための「たがじょう子どもの心のケアハウス」を設置しています。ここでは学校とは異なる形での活動を行っていますが、ケアハウスへの出席は、学校の出席扱いとなります。相談を随時受け付けています。家庭からなかなか外に出られないお子さんに対しては、家庭訪問をしながらの支援（アウトリーチ支援）も行うことができます。 TEL 080-3340-3955
一般社団法人 manaco 〈新規〉	多賀城市では、家から出ることにも困難を感じているお子さんにも、学びの機会をもてるように、一般社団法人 manaco さんと連携し、オンラインによる学習支援活動を令和６年４月からスタートします。教職をめざす大学生が支援を行います。元気が回復してきたら、数人での対面学習の場も用意されています。随時相談を受け付けています。活動の内容により学校の出席扱いとなります。 連絡 https://manaco0501.com/contact

令和７年度児童生徒支援に係る事業

1. **たがじょう心のケア教育相談事業（令和7年度継続）**

子どもたちが抱える問題や課題を早期発見できるよう相談体制を確保し、いじめや学校不適応といった問題の解決に向けて各専門家による連携支援を実施

(1) スクールカウンセラーの全校配置

・県費負担非常勤職員を全校１名ずつ配置

・各学校にて月３～４回相談日を設定し、児童生徒、保護者及び教職員等が相談可能

(2) スクールソーシャルワーカーの派遣

・県からの委託契約に基づき、市が直接雇用を行い、各学校の申請に応じて派遣

・３名任用

・問題を抱える児童生徒がおかれている環境への働きかけを行い、関係機関等とのネットワークの構築、連携及び調整、学校内におけるチーム体制の構築支援等を行う。

(3) たがじょう子どもの心のケアハウスの運営

・平成２９年度開所し、令和４年度から特定非営利活動法人アスイクへ業務委託

・通所者数は増加傾向（グラフ「ケアハウス通所者数（実数）推移」参照）

(4) 学校内の別室登校児童生徒への対応支援

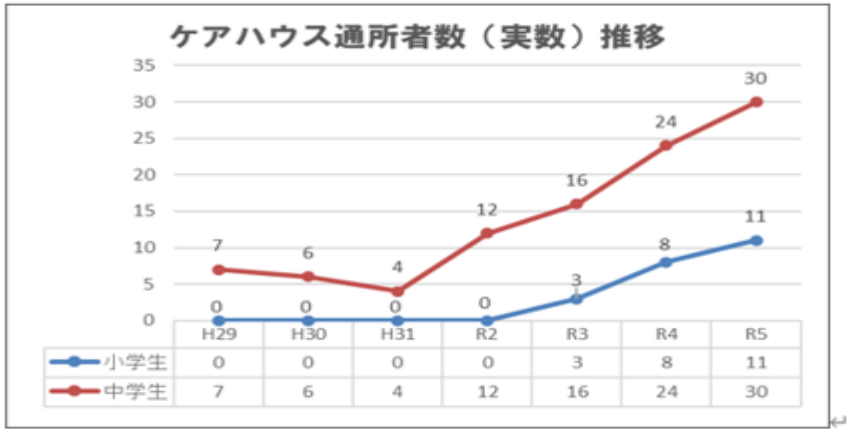
普通教室での学習や集団活動に不安を抱えている児童生徒が安心して学ぶことができる校内環境の整備を支援

・学び支援教室の設置（山王小、城南小、第二中、高崎中）

※県の学び支援教室支援事業を活用して実施しており、本事業により学び支援教室担当教員が加配され、県の学び支援教室コーディネーターからの助言を受けながら対応。市としては教材や参考図書等の購入費用の支援や学生ボランティアを派遣

・その他各校における別室（保健室、空き教室等）

各校の工夫により対応しており、教材や参考図書等の購入費用を支援



【その他】

○リタリコ教育支援ソフト（全小・中学校）
○スクリーニングテスト（小１）
○たつじんテスト（小２～４）
○SC・SSWとのケース会議
→ 正確なアセスメント

○ケアハウス担当者会議
○学び支援教室担当者情報交換
○特別教育支援員の勤務体制の変更
（週２３時間から３０時間へ）
→ アセスメントに基づく適切な支援

○不登校児童生徒に係る研修会
※R6は全教職員対象・保護者参加
→ 未然防止・早期対応

○学校運営協議会との連携・協働
○地域学校協働本部の支援
→ 地域総ぐるみでの支援